小学生（低学年）の保護者向け

テーマ

一人で登校できず、親から離れられないときどうする？

エピソード

入学式を終えた小学1年生のりょうくんは、朝になると「いっしょに学校に行って」とお母さんに言ってきます。学校に着いてもなかなか離れられず、泣き出すこともあります。

最初の頃は仕方ないかと思っていましたが、今後、親としてどのように対応したらよいか、不安に感じています。

ワーク1

学校に着いたときのりょうくんはどんな気持ちだと考えられますか？

ワーク2

あなたなら、りょうくんにどんな言葉をかけますか？

話し合いの後に、ワーク3をお書きください

ワーク3

お子さんが親からなかなか離れられないとき、親としてどんなことをしていけばよいかを考えてみましょう。

子育てのヒント

ポイント

大人は子どもの「安心基地」

不安な時にくっついて安心したい気持ちは本能です。
大人は子どもの存在を丸ごと受け入れ「安心基地」になりましょう。

資 料

大人も子どもも
初めてのことは
不安でいっぱい

1 親から離れられない子どもを理解しよう

・親から離れられないのは、子どもの発達において正常なステップです。時期や期間、程度は子どもによって違いますが、これは正常なもので心配する必要はありません。こういった時期があるのは、成長につれて子どもが親から離れることを学び、その意味を理解していくためです。

・子どもの気持ちに目を向け、子どもの気持ちを言葉にしてあげると、子どもは受け止めてくれていると感じ安心して、前向きになれます。

2 子どもが「愛されている」と感じる関わりをしよう

・スキンシップは、コミュニケーション能力、自尊心を育むだけでなく、大人との強い絆を結び、安心感を得やすい傾向にあります。
そのため、充分なスキンシップを経験すると、子どもは不慣れな状況でも親に頼らずに行動できるようになるでしょう。

・子どもが自分でやろうとする姿を見守り、一人でできたことを一緒に喜びましょう。
認められていると感じることで自信を持ち、自立的な行動を続けることにつながります。

・1日の中に、親子で過ごす濃密な時間をつくることも効果的です。短い時間でも、ゆっくりと子どもの話を聞き、100%子どもに集中することで、心が満たされて、それ以外の時の不安も緩和されます。

3 子どもの自立のために手を出しすぎないようにしよう

・どんな子もいずれは壁にぶつかり、成長しようともがくときがきます。壁を乗り越えるたくましさを身に付けるために、大人がしてあげられることは、手を出しすぎず、子どもに寄り添い、子どもを信じて、じっと見守ること。手をかけるのではなく、目をかけて、言葉をかけて、心をかけることが大切です。

参考文献
・アタッチメントがわかる本　監修 :遠藤 利彦　・子どもの心を強くするすごい声かけ　著者 :足立啓美
・明るい子どもが育つ0歳から6歳までの魔法の言葉　著者:竹内エリカ
・リーフレット「子どもが自分らしく輝くために」「つながるひろがる子どもの学び」福井県教育委員会